

令和3年度生涯学習センター事業運営の評価について

◎ 趣 旨

生涯学習センター事業の企画・運営の方向性を示す「令和3年度生涯学習センター事業運営の考え方」に基づき、令和3年度に実施した生涯学習センター事業について評価を行うもの

1 令和3年度生涯学習センター事業運営の考え方

生涯学習センターにおいては、「第3次宇都宮市地域教育推進計画」の理念の実現に向けて、下記項目を重点として取り組んでいく。なお、各重点項目については、指標を基に評価していく。

(重点項目1) 地域住民の学習意欲の高揚と生活の向上に資する事業の推進

指標1 生涯学習センターの利用者数(講座参加者数及び貸館利用者数)

指標2 生涯学習センターにおける講座の開催数

(重点項目2) 家庭教育支援の充実と学校や地域と連携・協力した教育活動の推進

指標3 子育て世代を対象とした参加交流型講座の参加者数

指標4 学校、地域、NPO、企業等と連携した講座の参加者数(子育て世代・青少年)

(重点項目3) 地域理解を促進する講座と学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実

指標5 (再)生涯学習センターの利用者数(講座参加者数及び貸館利用者数)

指標6 生涯学習センターにおける学習相談件数(来館、電話)

2 重点項目の評価について

生涯学習事業運営における重点項目の評価 【資料3-1】のとおり

3 事業運営全体の評価

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、親子での交流や子育てに関する悩み等の支援を目的とした講座や、企業や大学等のもつ多様な知識やスキルを活かした講座などを開催し、家庭教育や子育てへの支援、さらには教育活動推進や地域理解に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症の影響や仕事等で普段講座への参加が難しい受講者を考慮し、ICTを活用してオンライン型と集合型を組み合わせた講座を開催するなど、実施方法等を工夫しながら、個々の内容が充実した講座を開催した結果、昨年度よりも参加者数及び講座数が増加した。

学習相談については、サークル活動団体の紹介や、新たに学習を始めることについての相談が見受けられ、全体的に学習相談件数が微増していることから、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも、学習活動に積極的に取り組みたい地域住民が増加していると考えられる。そのため、幅広く最新の学習情報の収集・提供に努めるほか、生涯学習センター事業やマナビスの認知度向上に向けて、さらなる取り組みの強化を図っていく。

また、デジタル化や新型コロナウイルス感染症拡大といった社会情勢の変化に伴い、スマートフォンやYouTubeといったICTの積極的な活用が推進されてきていることから、対面式とオンライン式を組み合わせた講座等の開催など、情報提供の在り方を見極めていく必要がある。

4 今後の取組方針

社会・経済環境の変化を踏まえ、「社会の要請」として、人生100年時代の到来に加え、子育て環境の変容、地域における子どもの育ち、職業や勤労観の変容、地域のつながりづくり・活性化、社会全体のデジタル・グローバル化、自然環境の変化それぞれへの対応が求められている。こうした今日的課題や社会的課題がある一方で、地域住民の学習活動に積極的に取り組む姿勢が増加してきていることから、地域の学習拠点として、家庭教育支援や子育て支援、教育活動推進、地域理解を向上させる学習機会の提供や情報収集の取り組みを強化し、より多くの市民の学習活動のさらなる活性化に取り組んでいく。

また、ZoomやYoutubeによる講座の動画配信など、ICT等の新しい技術を積極的に活用しながら、市民の学習への興味や関心を高め、学びを深めることができる環境や情報提供の一層の充実を図っていく。